

1 単元 したことをじゅんじょよくかこう「月見だんごの作り方を知らせよう」

2 指導観

- 本学級の子ども達は、1年生2名（A、B児）、3年生2名（C、D児）5年生1名（E児）、6年生1名（F児）の計6名である。学年も違い、国語的能力も違うので、個別に学習を進めることが多いが、野菜を育てたことや、野菜の調理をしたことなど、共通の題材を決めて書く経験をしてくている。これまでに、A児はひらがなの読み書きができるようになり、B児はひらがなを5文字読み書きできるようになり、C児は2年生程度の漢字の読み書きができるようになり、D児1年生程度の漢字の読み書きができるようになり、E児は4年生程度の漢字の読み書きができるようになり、F児は1年生の半分程度の漢字の読み書きができるようになった。そこで、経験したことの順序を考えながら文を組み立て、B児はなぞり書きできるように、A児、F児は助詞に気をつけながら視写できるようにしたい。C、D、E児は、経験したことの順序を考えて書くことができるようにしたい。
- 本単元は、特別支援学校学習指導要領に示された「見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。」「見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。」に関わり、「書く」を中心に設定するものである。まず、生活単元で経験した月見団子を、家でも作れるようにしようと提案することで、作り方を書こうという意欲をもたせることができる。また、分かりやすく書くために、接続語を使って順序よく書くこと、助詞を正しく使うことにつなぐことができる。さらに、書いた文を発表し合い、よさを見つけ合うことで、自分なりに表現することへの自信をもたせることができると思う。
- 本単元の指導にあたっては、作り方を書くことを意識しながら、生活単元でお月見団子作りをする。そして、お月見団子を作ったことを順序よく作文に書けるようにしたい。
尚、本時指導にあたっては、順序を表す言葉を使って、月見団子の作り方を書くことができるようにする。その際、書くことが思い浮かばなかったり、作り方の順序を想起できなかったり、どう言葉で表現していいか分からなかったりして、文を書くときに困ることが予想される。そこで、写真や言葉カード、文カードを並び替え、したことの順序を思い出させる。そして、接続語を使いながら、お月見団子の作り方を分かりやすく書くことができるようにする。順序を考えながら写真や文カードを並び替え、B児はなぞり書きを、A、F児は助詞に気をつけながら視写させる。C、D、E児は、写真や言葉カードを手がかりにしなが、順序を考えて書かせる。さらに、書いたことを声に出して読ませ、発表する練習をさせる。最後に、書いたこと、発表練習をしたことの感想を出し合い、達成感を味わわせる。

3 目標

- 月見団子を家でも作ることに関心をもち、調理したことの順序を意欲的に話したり、聞いたり、書いたりしようとする態度を育てる。
- 「はじめに」「つぎに」などの順序を表す言葉や助詞に着目し、手順を示す写真や言葉カード、文カードと照応させながら順序よく書くことができる。
- 姿勢や声の大きさに注意して発表したり、話す人の方を見て聞いたりすることができる。

4 本単元の学習活動（生活単元2時間、国語1時間）

- 1 お月見団子を作る。 _____ 2
- 2 お月見団子を作ったことを書く。 _____ 1
 - (1) お月見団子の作り方を書く。 ①本時

